

【10-3-8】 主要科目の特長（国際文化学部国際協力量科）

国際協力量科のカリキュラムを構成する各科目群・分野の内容は次のとおりです。

(1) NGU 教養スタンダード科目

キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説 1」「キリスト教概説 2」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～2b」などの科目を配置して、「将来になりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

情報に関する科目

情報教育の充実は、本学の大きな特色です。全学生にノートパソコンを配付し、すべての学生がコンピュータを使って学べるように指導しています。必修科目の「情報処理基礎」では、コンピュータやネットワークの基本的な利用方法を半年間でマスターします。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」の6カ国語を学ぶことができます（学部によっては履修できない外国語もあります）。また、「日本語表現上級」も学修することができます。

社会的教養に関する科目

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには、一般教養の修得が欠かせません。本学では、＜歴史・文化＞、＜社会＞、＜自然・人間・生命＞、＜地域＞の4区分の学修を通じて、適切な教養の修得を目指します。

(2) 専門科目

(1) 学科基幹科目

《学科基幹科目》は「国際文化協力」「国際文化支援」の学修の根幹をなす重要な科目を集めています。必修科目の「国際関係論」および「国際協力論」から多様に展開する多文化・異文化学習と相俟って、国際文化協力・国際文化支援を推進させるための学習体系となっています。このほか、選択科目として以下の科目を配置しています。

「国際文化支援論」「開発社会経済論」「文化交流論」「国際社会学」「マイノリティ論」「ジェンダー論」

(2) 国際文化協力科目

《学科基幹科目》と並行して《国際文化協力科目》および《国際文化支援科目》が配置され、多文化共生社会の現代的な課題に則して、広範な文化協力・文化支援体系の中から各自の専門的分野を選択することになります。

《国際文化協力科目》は、国際関係のあり方を深く学ぶとともに、世界の中で日本が置かれた状況、とりわけ開発途上国と日本との関係を多様に学びます。選択科目として以下の科目を配置しています。

「国際移民論」「文化変容論」「日欧交流史」「日本アジア交流史」「日中関係論」「アジア政治経済論」「日本社会論」「環太平洋地域研究」「アジア地域研究1・2」「国際機構論」「国際平和学」

(3) 国際文化支援科目

《学科基幹科目》と並行して《国際文化協力科目》および《国際文化支援科目》が配置され、多文化共生社会の現代的な課題に則して、広範な文化協力・文化支援体系の中から各自の専門的分野を選択することになります。

《国際文化支援科目》の科目区分では、特に開発途上国の支援を念頭に据え、開発途上地域の実情を理解し、支援活動を考察することで、現実的な途上国支援のあり方を学びます。選択科目として以下の科目を配置しています。

「多文化共生社会論」「異文化コミュニケーション論」「世界遺産論」「地域発展論」「多文化教育論」「国際福祉論」「NPO・NGO論」「国際人権論」

(4) 国際文化関連科目

国際文化学科開設科目を中心に《国際文化関連科目》として必修の「比較文化・社会論1」他選択科目7科目、および様々な資格や検定試験に挑戦するための「国際文化能力開発1~3」を配置しており、本学科の教育目標である国際文化協力・国際文化支援を支えるべき広範な国際文化の視野を習得することができます。

(5) 留学単位振替科目

国際文化学部では、可能なかぎり海外での研修・実地体験を経験するために、留学やスタディツアーへの参加を推奨しています。本学が実施する長・中期留学に参加し、その期間中に当該大学で修得した正規の単位については、本学部の規程に従って、本学部の教育課程にある科目に振替認定することができます。

また短期留学やスタディツアーでの学修は、《留学単位振替科目》の「海外事情1～4」などで認定されます。

(3) 演習科目

学部の《演習科目》の内、必修科目は、2年次の「国際協力基礎演習1・2」および3・4年次の「演習」になります。「国際協力基礎演習1・2」では広く国際理解・国際交流に関する自主的学習のための基礎を形作ります。「演習」では、担当教員の指導を得ながら卒業研究・論文作成に至る専門的学修をおこないます。「演習」の選択にあたっては、学生のみなさんが希望する教員・専門的分野を選択し、教員の選考を経てゼミの一員となることができます。

また、「スタディツアー」と関連つけられた選択科目である「国際協力実践論」においては、国際場面における実践的学習の方法と実践後のプレゼンテーションなどを学びます。

◎専門科目の一部をピックアップ

国際協力論

世界のさまざまな格差や貧困問題、宗教対立などを理解し、国際協力の意義を学びます。グローバル時代の課題と自分との関わりや、国家や国際機関の課題が明らかとなります。また、市民の文化交流や企業の社会的責任など、身近な活動としての国際協力への理解も深めます。

NPO・NGO論

国家や企業の利益に縛られずに国際問題の解決に取り組むNPO(非営利組織)やNGO(非政府組織)について紹介します。実際に名古屋で活動するNPO・NGOスタッフの方をゲストスピーカーとして募り、お話を伺う機会も設けています。

ジェンダー論

「男性は仕事、女性は家庭」「男性は強く、女性は優しく」といった性による既存の役割分業について、改めて考察します。専業主婦や家事・育児・介護、生殖医療などさまざまな社会現象をジェンダーの視点から解説し、性に関する概念を問い直す力を養います。